

紀州徳川家 戦国江戸の時代絵巻

和歌祭

定期公演



キーノ和歌山2階「センターテラス」

2021
1/10

日

14時

2020
12/13

日

14時

2020
11/15

日

14時

餅つき踊り

餅つき踊りは元和8年(1622)の和歌祭の創始から出されていた練り物であったが、寛文5年(1665)の練り物縮小令で翌年からは出されなくなった。しかし、寛政12年(1800)に『紀伊国名所図会』の編述者である高市志友が、团扇太鼓を加えて再興している。明治時代以降和歌浦に株が移され、株主の家では代々世襲されており、なかでも華やかな餅手合は、渡御行列を華やかに彩っている。

御船歌

御船歌は紀州藩御船手方の藩士が船を漕ぐ際に歌っていたもので、江戸時代の和歌祭では海上に出された関船と渡御行列の唐船で歌われていた。現在の御船歌は平成22年(2010)に復興されたもので、「長唄」「端唄」「せり唄」「やれ節」の四種が歌われている。

薙刀振

薙刀振は元和8年(1622)の和歌祭創始期より城下町の人びとによって江戸時代は継承されてきた芸能で、加太のえび祭りなどにも影響をあたえている。江戸時代中期以降の和歌祭の長刀には柄部の両端に房が付けられ、技芸化が進み、現在では「前回し」を基本として「肩回し」、「うぐいす谷渡り」といった10を超える技を組み合わせた連続技が行なわれている。この薙刀振は現在の和歌祭でもっとも修練を必要とする芸能となっている。

摺鉦・太鼓

摺鉦・太鼓は神輿の渡御行列を囃す和歌祭を象徴する鉦と太鼓による囃子で、代々旧和歌村(現和歌浦)の株によって継承されている。



主催 南海電気鉄道株式会社
和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus

協賛 和歌祭保存会

監修 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 吉村旭輝特任准教授

新型コロナウイルス等感染症
対策へのご協力をお願いします
見学の際には

- マスクの着用をお願いします。
- 三密を回避ください。